

ローカルテレビ局のあるべき姿

地域主権の実現と、地域情報の発信に取り組む放送人の矜持が見事に綴られる

磯野正典

日本大学法学部新聞学研究所 監修
米倉 律・小林 義寛・小川 浩一 編

▶ **ローカルテレビの60年**
地域に生きるメディアの証書集
8・7刊 A5判336頁 本体4400円
森話社



本書は放送事業に関わる全
ての人々、また、これから業
界を目指す人たちに読んで欲
しい一冊である。創成期のテ
レビ業界の貴重な知見が消え
うせようとするこの時代に、
ローカルテレビによる地域主
権の実現と、地域情報の発信
に取り組む放送人の矜持が見
事に綴られ、ローカルテレビ
局のあるべき姿を示してい

る。
放送業界が変革期を迎えて
いることは既に相当前から言
われている。本書では本当の
意味での危機はその内部に存
在していることを強く認識さ
せてくれる。一言で言えば放
送業界の先達が連綿と築き上
げてきた放送理念の実現への

取の組みが忘れ去られよう
としている」という危機だ。
ヒアリング対象局は歴史を
積み重ねてきた老舗放送局
で、日本の民放界を牽引して
きた先駆者JNN系列の局が多
い。そして、FNN系列の2
局(福岡テレビ・沖縄テレビ)
とNNN系列の山梨放送が入
っている。

ローチをされている。
いずれも先達の言葉や考え
方について、現在の放送活動
につながる背景や歴史をも含
めて丁寧に聞き取り読む者の
心を打つ。聞き手は幅広い視
点から問題を投げかけ、興味
深かつアカデミックなアプ
ローチをされている。

主義社会の進展に資するた
めの理念を改めて感じること
ができる。同時に、その精神
が連綿と受けつがれている事
実が今回の上梓によって再確
認され、公にしたことにより
な意義がある。

これらの局で語られた言葉
の数々には、地域メディアと
しての責務と役割の認識、崇
高な理念とその実現に向けた
取り組みが冷静に語られてい
る。著者たちの狙いとしての
「今聞いておかなければ失わ
れしまう貴重な資料」として
の価値が十分有り、流石に日
本大学法学部・同新聞学研究
所が3年の月日をかけた大プ
ロジェクトである。

法第4条の撤廃が規制緩和
という真しやかな論理によっ
て「言論の自由と多様性を
崩壊させようとしている。
このよみな時代的背景のな
か、本書を読み終えると今回
のヒアリング対象局以外の局
はどうなっているのかが気に
なってくる。

これらローカルテレビ局に
存在している理念と、それを
実現するための具体的なミッ
ションが声高に叫ばれること
はあまりない。それらは経営
理念として掲げられたり、時
に経営計画の一文に垣間見る
ことにはできるが、一般の目に
触れることは殆どない。現状
の社情にどうも言葉だけの
存在に足りがちである。

を控えた時期から存在し、莫
大なデジタル設備投資に向け
放送外収入の確保に狂騒した
姿がそのことを物語っている
といえよう。
顕著な例として、東日本大
震災発生直後、某局の経営下
では新年度経営計画の発表
にあたり社員を社屋ロビーに
集めこう言った。「この震災
で私ははつきりと認識したこ
とがある。それは、諸君が番
組作りをしなければならぬ
ことだ」と。そこには地域の
被災者や情報弱者に対する思
い、そして、地域メディアと

そこにメディアとして矜持
はあるのか、疑問の余地が広
がる。この疑念はデジタル化
を控えた時期から存在し、莫
大なデジタル設備投資に向け
放送外収入の確保に狂騒した
姿がそのことを物語っている
といえよう。
顕著な例として、東日本大
震災発生直後、某局の経営下
では新年度経営計画の発表
にあたり社員を社屋ロビーに
集めこう言った。「この震災
で私ははつきりと認識したこ
とがある。それは、諸君が番
組作りをしなければならぬ
ことだ」と。そこには地域の
被災者や情報弱者に対する思
い、そして、地域メディアと

に社会に大きな影響を与えて
いるはずである。
つま、本書で取り上げら
れた老舗局などは異なる価
値観を持つ経営者が現に存在
するがゆえに、業界の現実を
も明らかにせねばならない。
ローカルテレビ60年の光の部
分にスポットを当てた本書で
あるが、次は影の部分へのア
プローチを期待する。テレビ
という華やかで社会への影響
力が強いメディアであればあ
る程、その光によって作られ
た影には深い闇が存在してい
る。そして、それは有形無形

（金城学院大学教授・メディ
ア論）

「一度これらの重要性を認識す
べきであろう。時代は「放送
成期」に存在した高い志と、民
主主義社会の進展に資するた
めの理念を改めて感じること
ができる。同時に、その精神
が連綿と受けつがれている事
実が今回の上梓によって再確
認され、公にしたことにより
な意義がある。
まとめと解説には、各地域
の放送局独自の歴史や背景分
析、具体的な取り組みが披露
された。それは時空を越え
る視点と視座から社会的意
義と民放局の地域主義の重要
性を明らかにしているのだ。
これらローカルテレビ局に
存在している理念と、それを
実現するための具体的なミッ
ションが声高に叫ばれること
はあまりない。それらは経営
理念として掲げられたり、時
に経営計画の一文に垣間見る
ことにはできるが、一般の目に
触れることは殆どない。現状
の社情にどうも言葉だけの
存在に足りがちである。

図書新聞

2018年12月15日 掲載